

第5回 幼保小合同研修会だより

日時： 令和7年11月14日（金）午後3時～午後4時40分

場所： 郡山市役所 西庁舎 5-2-1 5-2-2

教育講演

「子どもの発達や学びの連続性を踏まえた
幼保小の連携・接続について」

宗形 潤子 氏



講師紹介 福島大学 人間発達文化学類 附属学校臨床支援センター教授
公立小学校教諭 福島大学附属小学校教諭 福島県教育庁 県中教育事務所指導主事
福島大学総合教育研究センター准教授を経て、現在は福島大学 人間発達文化学類教授として
教育・研究に従事されています。

今回の合同研修会は、グループセッション中心で行われました。初めに先生から『目指す教育の方向性』について文科省の論点整理をもとにご説明いただきました。その中で「『好き』（興味・関心）を育み、『得意』を伸ばすことが教育の中心になる。それは、とても重要で喜ばしいこと」と笑顔で嬉しそうに仰られていたことが印象に残っています。また幼児教育への注目箇所として『非認知能力（社会情動的スキル）』を挙げられていました。非認知能力を育てるカギは、温かく信頼できる関係性をつくること、継続的で体験的な実践を心掛けることが大切で、具体的には、「子どもたちのやりたいことをできるだけやらせること」「失敗しても大丈夫だよと伝えること」「友だちと協働できるチャンスを作ること」だと伺い、私達の関わりの重要性を再認識しました。

グループセッションでは、9グループに分かれ、『秋の遊び』をテーマに、自園や自校での活動を振り返り、遊びについてじっくりと考えたり、その時の保育士・教諭の思いについて共有したりする時間を持ちました。最初は緊張した面持ちの先生方でしたが、時間が経つにつれ笑顔で楽しそうに話し合い、穏やかにコミュニケーションをとられているように感じました。

幼保小の連携については、園と小学校の先生が、子どもの育ちを中心に据え、対話を通して相互理解実践を深めていくことを目指し、無理せず、できるところから始めて欲しいとアドバイスをいただきました。90分があっという間に感じ、楽しく、学びの多い研修会でした。

資料から

実践例(すぐできそうなこと編)

- ・園便り・学年便りの交換（掲示）
- ・子どもの訪問
- ・子ども同士の交流（砂遊び！遊びから）
- ・目指す子どもの姿の相互理解

→ グランドデザインの紹介

→ 写真や動画を多用しつつ

具体的な子どもの姿で共有

ex. 「目指す子どもの姿」を伝えていく
感じたものを写真などをもとに共有
保育日誌から紹介 **10の姿を視点として**

- ・困っていることの共有



アンケートより

※様々な立場の方と話ができた事で、新たな発見ができた。また、グループワークで、自分の大切にしている事が分かり、とても良い研修となった。分かりやすい内容で、幼児教育がとても大切な時期で、関係する機関が連携をして子ども達に関わりを持って途切れずに支援していかなければと感じた。

※自分にとって、保育の中で大切にしているものはなんだろうと、改めて考える機会になった。先生の研修は毎回、素敵なお土産（今回は自分が大切にしていること3つ）を持ち帰ることができ、すぐに次の日から役立てることができる。幼児教育の大切さ、子ども中心の考え方を再認識することが出来たので、明日からの保育も頑張っていきたいと思う。

※小グループ編成で演習方式は、本研修会では初体験だった。先生の進行が適切で、初顔同士でも楽しく真剣に思いや考えを出し合うことができた。後日まで忘れない時間になった。